

新千歳空港脱炭素化推進計画(概要)

1. 基本的な事項

○空港の特徴

・平行滑走路2本と旅客ターミナルビル2棟等を有し、年間着陸回数7.7万回、乗降客数2,281万人(2019年度)を取り扱っている。

・2020年6月より北海道エアポート(株)が空港運営を開始。

○空港脱炭素化に向けた方針

・空港建築施設の省エネや照明、灯火のLED化、空港車両のEV化・FCV化、太陽光発電の導入を最大限実施し、空港の脱炭素化を推進。

2. 温室効果ガスの排出量

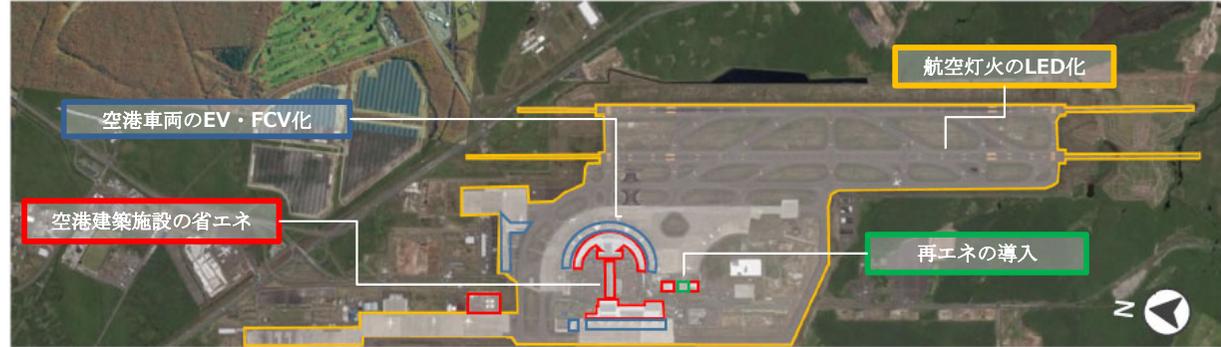
区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	61.8千	66.9千	
空港車両	4.3千	4.5千	
空港施設・車両 計	66.1千	71.5千	
(参考)	航空機	91.8千	105.5千
	空港アクセス	79.6千	103.9千

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

- ・2030年度: 旅客ターミナルビル、庁舎の及び道路等の照明LED化、空調設備等の高効率化に等の省エネや太陽光発電による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度: 太陽光発電の拡充及び蓄電池の導入、水素燃料の活用したコージェネレーション導入。



その他の取組

- ・SAFの導入促進 : HAPや地元自治体等の関係者と連携し、SAFを積極的に受入れ、航空機の運航における脱炭素化に取り組む
- ・地域連携・レジリエンス: 周辺の公共施設へ余剰電力の供給や、災害に伴う停電等が発生した際の地域への電力供給を検討
- ・意識醸成・啓発活動 : 本計画の達成状況の数値化、パネル展等により空港関係者及び利用者への理解促進及び認知度向上に取り組む